

エビネ

Calanthe discolor Lindl.

ラン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

従来もやや稀な植物であったが、園芸採取ならびに雑木林の管理放棄を原因とする生育環境の悪化ならびに遷移の進行により、急激に減少しつつある。(現況:R-)

形態

本県にはエビネ属植物が4種自生する。本種は苞が開花時にも脱落せず、花は中型で8~15個が花茎にまばらに着き、唇弁は帯紅色または白色で二裂、縁は細裂しない。萼片の長さは9~15mm。花被片は暗褐色。偽球茎は球形。

国内分布

北海道西部、本州、四国、九州、琉球(カソウダケエビネ、ハノジエビネなどが種分化)、朝鮮の済洲島に分布。

県内分布

奥能登、口能登・加賀中央部ならびに南加賀区。

生態など

開花期は4~5月。

生育環境

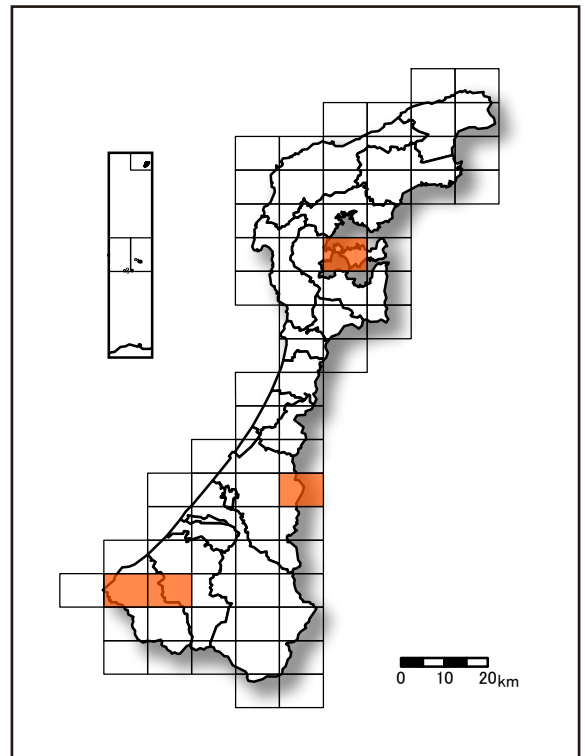
夏緑樹林、雑木林の林床などに生育。

危険要因

森林伐採、湿地開発、土地造成、園芸採取、自然遷移。



小野ふみゑ・2006年5月14日・加賀市



県内の分布